

# LAGUNA

## News Letter



代表取締役会長 森越まや

2023年を迎えました。皆様、いつも変わらぬご支援を本当にありがとうございます。

今年、ラグーナ出版は設立15年、もう一度原点に戻る時期と感じています。「体験を言葉に変えて生きる力にしよう」と、言葉を集めることから私たちの活動が始まりましたが、同じ頃、イタリアでも北の町トレントから「共に言葉を探そう」という運動が大きく広がりました。「自分の言葉を発見することは、自分自身を見つけること」という思いから、「輪になって座り、何を話してもいい場」である「再発見された言葉たち」の集いが生まれました。イタリアでは、

## 言葉を生きる力に

2000年から「再発見された言葉たち」の全国大会を開催。昨年のローマ大会にはラグーナもオンラインで参加し、歌あり、涙ありの感動の時間を共有しました。

『シナプスの笑い』は創刊以来、入院中の患者さん方が作品を寄せてくださいます。名作『風の歌を聴きながら』も投稿作品から生まれました。「自分の言葉を見つけて多くの人に伝えてほしい」。これが私たちの願いです。

これからのラグーナにどんなことができるでしょうか。近くても遠くても、皆さまと共に歩いていきたいです。こんなことをしてみたいというご希望やアイデアを是非お寄せください。社員一同、楽しみにお待ちしております！



代表取締役社長 川畑善博

創立16年目を迎えることができました。皆様のご声援、本当にありがとうございます。

コロナ感染症の影響で、この3年間、人と会う機会が制限されて書類とにらめっこする日が増え、社員、利用者と共に何かを行う時間がぐっと減ったと感じます。その一方、コロナに対する社会全体の耐性がつき、アフターコロナの機運も高まってきました。今年は原点に帰り、社員と共に働き、誰もが朝の目覚めがよく、夕方には心の平和を感じられる会社をつくっていきこう、と考えています。

3月1日より、自立訓練とNPO法人ポラーノ・ポラーリのB型事業所を合併し、ラグーナ出版B型事業所ポラーノ・ポラーリをスタートします。「ポラーノ」の名は、宮澤賢

## ポラーノの広場をみんなでこさえよう

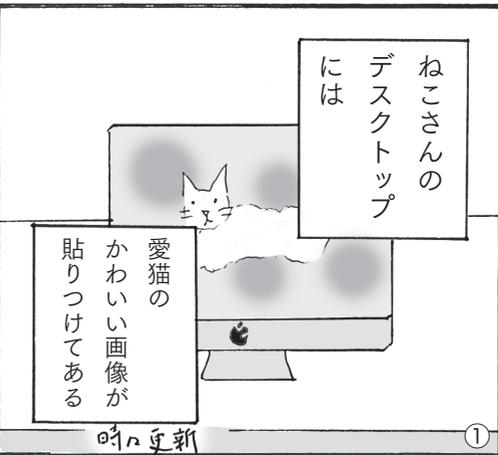
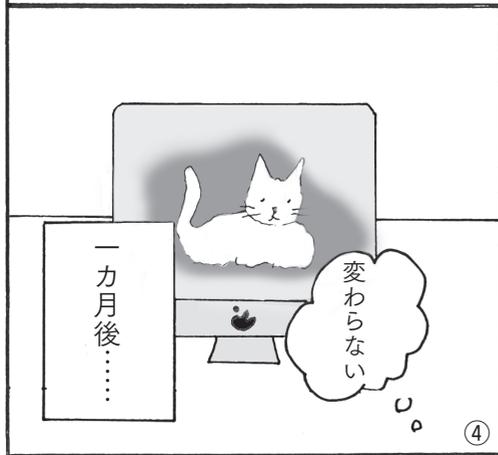
治の『ポラーノの広場』からとったものです。

“そこへ夜行って歌えば、またそこで風を吸えば、もう元気がついて  
明日の仕事の中体いっぱい勢がよくて面白いような  
そういうポラーノの広場をぼくらはみんな  
でこさえよう”

レデンブドール修道女会、精神保健福祉ボランティアサークル、鹿児島大学農学部、養蜂プロジェクト、子ども食堂、芸術家の方々のつながりの中で、畑を耕し野菜を育て、食事をつくり、商品をつくって販売する。体を動かし、楽器を演奏し、歌を歌い、朗読する。

皆様と共にワクワクをつくっていただけたら幸いです。本年もどうぞよろしくお願いします。

# ラグーナ あるある 日記 番外編 作/有川



## おすすめの既刊案内

### イタリア 地域精神医療の 思想と実践

患者・家族・支援者は語る

森越まや 著

2022年11月28日刊行  
四六判、340頁、2,970円(税込)



イタリア地域精神医療の現在を照らし出す50人の語り。精神科病院を廃絶し、治療の場を病院から地域へ移行したバザーリア法から約半世紀。イタリア精神医療は何を求めて変わり続けているのか？ラグーナ診療所で精神科医として働く著者が、イタリア地域精神医療の現場を丹念に訪ね、日本の精神医療の可能性を探る。

### シナプスの笑い vol.49

ラグーナ出版編集部 編

2023年2月20日刊行  
A5判、128頁、800円(税込)



特集は「呼吸を整える」。呼吸アドバイザー米満亜子さん、ヨガ講師木元彩須花さんにインタビューし、呼吸と心の深い関係を探る。連載「医療福祉を愛する人たち」では、作業療法士協会の遠藤千冬さんをご紹介します。また、新連載「体とところに優しいレシピ」を開始。“食べることは生きること”をテーマに、管理栄養士の土井和子さんとともに食を考える。

中井久夫と考える考える患者シリーズ

- 1 統合失調症をたどる
- 2 統合失調症をほどく
- 3 統合失調症は癒える
- 4 統合失調症と暮らす

考える患者たち 著  
中井久夫 監修・解説

2015年～2018年刊行  
四六判、256頁、2,750円(税込)



風景構成法、寛解過程論など統合失調症治療を常にリードしてきた故・中井久夫氏と、考える患者たちの対話から生まれた全4巻。統合失調症の1)回復過程、2)症状と対処、3)治療と治療関係、4)生活の知恵で構成。患者を尊敬し、患者の側に立ち続けた氏ならではの言葉が散りばめられている。統合失調症に関わるすべての人に希望を与える書。

### 感動が 人を変える 心震えるエピソード 50選

坂本光司 &  
中小企業人本経営 (EMBA) 著

2022年4月8日刊行  
四六判、276頁、1,760円(税込)



人は人を変え、会社を変え、社会をも変えていく。障がい児を抱えたお母さん、終末期の高齢者患者、外国人技能実習生、コロナウイルスに立ち向かうホテルマン、地震の災害時にも走るバスの運転手、人の幸せを願う経営者……。坂本光司氏を編者に、人を大切にす経営を実践する、総勢50社の感動エピソードを紹介。

# 紹介

ちにインタビュー♪

好きな食べ物 ③ 2023年の夢

 <sup>ふかみ</sup> 深水 / 編集部 / 入社9カ月目

- ①最初はマスクに抵抗があったが、今ではマスクがないと違和感がある。緊張をもって見ていたコロナ関連のニュースも日常の一部になり、妙に生活になじんでいる。
- ②寿司の<sup>あぶ</sup>炙りサーモンが好き。炙った鮭とマヨネーズのマッチングがいい。
- ③一年間ぐらいかけて日本列島縦断。飛行機や新幹線はなるべく使わず、鈍行列車で48都道府県を回るという旅。泊りは民宿かビジネスホテルを使い、史跡、名所などを巡りたい。

 ウナム / 編集部 / 入社14年目

- ①第一波で、県境から出られないことがよかった。予想が外れ、予定が実現されないことが余裕につながった。こんな感覚が生まれて、精神病なのに予定外があってよかったと感じた。
- ②明太子と白いご飯が好き。初めての一人暮らしで食べたことを思い出す。
- ③私は毎日生きるだけでいっぱい。バスの運行が減って、坂を登らなくていい早い便のバスに乗れるようにがんばっている。

# 社員

ラグーナの仲間たち

## ① コロナ禍で変わったこと ②

### ✿ ほほ／営業部／入社6カ月目

- ① つらいのは、離島で暮らす妹と気軽に会えなくなったこと。私の所へ来る度にPCR検査をしなければならぬらしい。でも、オンラインゲームで毎日声が聞けるだけでうれしい。
- ② 母が作る、砂糖としょう油の甘い卵焼きが大好き。今では自分で卵焼きを作り、ポン酢やドレッシング、マヨネーズなどいろいろアレンジ。でもやっぱり、母の甘い卵焼きが一番！
- ③ 今、育てているお花「カランコエ」を長く咲かせ続けること。半年近く葉だけだったけど、今つぼみがあるので、7カ月以上咲き続けるといふ花を、毎日眺められるように頑張りたい。

### ✿ ねこまる／編集部／入社2年目

- ① 一昨年の5月、コロナ給付金の10万円をバイクの教習代に使い、免許を取得。毎日バイクで通勤中。
- ② ダイエット中はオートミールを食べているが、たまに気が緩んで、すごく焼き肉を食べたくなる。二人前300gを食べたときはとても幸せ。
- ③ イタリア、ヨーロッパを旅してみたい。できればいつかヨーロッパ移住したいので、イタリア語なりドイツ語なり英語なり、語学もがんばりたい。

## もふもふノ制作部ノ入社3カ月目

- ①デルタ株まではすごく怖くて、毎日不安でドキドキ。“具合の悪い患者さんをストレッチャーに乗せて運んでいる途中、コロナ患者ということが分かり、両手でウイルスを払っている、という夢の途中で目が覚めて、実際に手で払っていた（笑）。
- ②お好み焼きが好き。こだわりは、長いもを多めに、そして必ずイカを入れること。作り方はまず、粉以外の具材を全部混ぜ合わせ、最後に小麦粉を少なめに入れ、さらに混ぜ合わせる。表面には豚バラを敷いて、カリッと。ソースは、いろいろ試した結果、ブルドッグのソースが一番お薦め！
- ③果物の種から実を育てるユーチューブ動画を見て、私も挑戦。シークワサーを焼さんまにかけた後、その種を惣菜パックに敷いた濡れティッシュの上に数个置き、蓋をして一週間放置。しかし、なかなか芽が出てこない……。あっ！暗くするのを忘れてた。その後、暗くしてみたら、芽か根かわからないものが出てきた。2023年はこの苗を大きく育てたい。

## 大佐ノ自立訓練部ノ入社1年5カ月目

- ①部屋で過ごすことが多くなり、快適に過ごす空間作りをした。快適に過ごせるようにはなったが、お金を使い過ぎた……。
- ②回転寿司が好き。好きなネタを好きなだけ食べられて幸せ。
- ③ピアサポーターの訓練生を目指したい。ラグーナだけではなく、他にもいろいろな経験をしたい。

✿ 犬ノ制作部ノ入社3カ月目

- ① 社会的な私だが、家に引きこもるようになり、憂うつな日が増えた。その代わり、自炊、読書など、新しい時間の使い方を見つけられたのはよかったかな。
- ② すきやきが好き。我が家の秋冬の定番、家族で食べるすきやきは本当においしくて、外食するのがもったいないくらい。
- ③ 昨年、奄美大島でシュノーケリングを体験。楽しかったので今年もやりたいな。ダイビングの免許も取れたら！

✿ ひまわりノ編集部ノ入社6カ月目

- ① のどの痛みがあり、PCR検査を4、5回受けたが、全て陰性。皆がマスクや手洗いをするようになったことは良かったのでは。これからもみんなと元気に暮らしていきたい。
- ② 薬の副作用の影響か、太ってきたので、野菜を多く摂っている。元気がないときは、炭水化物と肉を食べる。年をとる度に小豆が食べたくなくなったのはどうして？
- ③ ipadをフル活用して絵を描くのが上手になりたい。スマホで写真を撮るのが上手になりたい。





## 沿革

- 2006年 3月 精神病体験者、医師、PSW、看護師らが集まり企画、編集した文芸誌『シナプスの笑い』創刊
- 2006年 5月 同メンバーにより、NPO法人「精神をつなぐ・ラグーナ」を設立
- 2007年 4月 就労継続支援A型事業所・株式会社ア・ライズのもとで出版活動を開始
- 2008年 2月 鹿児島市紫原に「株式会社ラグーナ出版」を設立
- 2011年 4月 自立訓練（生活訓練）事業所「サポートネットラグーナ」を開設
- 2011年 12月 『日本でいちばん大切にしたい会社3』（坂本光司著）で弊社が取り上げられる
- 2015年 11月 「中井久夫と考える患者シリーズ」全4巻刊行スタート（2018年12月までに全4巻刊行）
- 2017年 7月 NHK番組「かごスピ」で弊社の取り組みが紹介される
- 2017年10月 『精神障害とともに』（南日本新聞取材班著）が日本医学ジャーナリスト協会賞大賞受賞
- 2018年10月 第69回「南日本文化賞」社会福祉部門受賞
- 2019年 9月 鹿児島県精神保健福祉協議会賞受賞
- 2020年 5月 毎日新聞、読売新聞他、地方紙数十社で活動や出版本が取り上げられる
- 2022年 3月 KTS鹿児島テレビ「KTSライブニュース」で弊社の活動が紹介される
- 2023年 3月 自立訓練事業所を事業転換し、就労継続支援B型事業所「ポラノ・ポラリ」を開設

### ● 2022年～2023年の刊行物や話題作です！

- 1月『恋するところ、旅するところ』遠藤ゆき著
- 2月『シナプスの笑い46号』ラグーナ出版編集部編
- 4月『感動が人を変える 心震えるエピソード50選』坂本光司&中小企業人本経営（EMBA）プログラム／編
- 6月『あなたのちからになりたくて』木村達哉著、『シナプスの笑い47号』ラグーナ出版編集部編
- 7月『縄文から現代まで 日本のモノづくり文化—わたしたちは何を創ってゆくのか』入船もとる著
- 9月『ママが小さくなったら』文・森山 絢月 絵・森山 遥月
- 10月『シナプスの笑い48号』ラグーナ出版編集部編
- 11月『イタリア地域精神医療の思想と実践 患者・家族・支援者は語る』森越まや著
- 2月『シナプスの笑い49号』ラグーナ出版編集部編

### ● 日々の活動をFace bookやホームページで紹介しています

## 株式会社ラグーナ出版

〒892-0847 鹿児島市西千石町3番26イースト朝日ビル3F

TEL 099-219-9750 FAX 099-219-9701

Mail : [info@lagunapublishing.co.jp](mailto:info@lagunapublishing.co.jp) H P : <http://lagunapublishing.co.jp>

